

初期研修医（ジュニアレジデント）

1	診療科名	耳鼻咽喉科
2	診療科紹介	自治医科大学耳鼻咽喉科は、大学附属病院を中核とした高度な耳鼻咽喉科・頭頸部外科医療を提供するとともに栃木県内を中心とした地域中核病院との連携のもとに栃木県、茨城県西部、埼玉県北部の耳鼻咽喉科医療を支えています。自治医科大学耳鼻咽喉科のモットーは、「患者さんとの触れ合いの中から優れた診療技術を習得し、問題意識を養成する」です。国内外に向けて絶えず情報発信していくことを心がけております。
3	臨床研修指導医	伊藤真人、金澤丈治、西野宏、福原隆宏、橋本研、島田茉莉
4	研修概要（特徴）	<p>広く耳鼻咽喉科領域の知識、検査、手技を習得すると共に鑑別診断と治療方針の知識習得を目標とする。入院患者診療チームの一員として病棟管理、手術、処置、外来（初診、一般、専門、救急）の習得を目指し、将来他分野を専攻しても、耳鼻科疾患を疑う患者に遭遇した際に、適切な対応がとれるようにする。特に耳鼻科救急疾患に対して適切な判断ができるようにし、急患として頻度が多い鼻出血、突発性難聴、顔面神経麻痺、扁桃周囲膿瘍などへの救急対応を行えるようにする。</p> <p>研修期間は1-2ヶ月と短期であるため、効率よい研修を行うため、研修スケジュールのなかで具体的な到達目標を明確にしておくことが大切である。</p>
5	研修内容（方略）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の診察を行い、基本的診察器具、顕微鏡やファイバースコープを用いての正確な所見を取る技術を学ぶ。 ・ 画像検査や専門的検査を適切にオーダーし、その結果を判読・評価する。 ・ 急性中耳炎、鼻出血、急性喉頭蓋炎、突発性難聴、めまいなどの救急外来での頻度の高い疾患について適切に対応し、初期治療ができるようにする。 ・ 気管切開術、リンパ節摘出術を介助でき、指導医のもと術者として実施する。
6	到達目標	<p>(1) 一般目標（GIO） 耳鼻咽喉科の代表的疾患の知識とその検査および基本手技を習得することを目標とする。</p> <p>(2) 個別目標（SBO） 特に代表的な救急疾患（急性中耳炎、鼻出血、めまい、気道狭窄など）については、救急処置までできる事を目標とする。</p>
7	週間スケジュール	
7-1	月曜日（午前）	手術、あるいは病棟処置、専門外来（小児耳鼻科）見学
7-2	月曜日（午後）	手術、あるいは病棟処置、17時30分～ 頭頸部癌症例の放射線科・臨床腫瘍科と合同カンファレンス
7-3	火曜日（午前）	手術（主に小児耳鼻科症例）、あるいは病棟処置
7-4	火曜日（午後）	手術(主に小児耳鼻科症例)、あるいは病棟処置、専門外来(腫瘍)見学
7-5	水曜日（午前）	手術、あるいは病棟処置、専門外来（小児耳鼻科）見学
7-6	水曜日（午後）	手術、あるいは病棟処置、専門外来（難聴）見学、17時30分～ 術前入院カンファレンス
7-7	木曜日（午前）	教授回診、病棟処置
7-8	木曜日（午後）	病棟処置、専門外来（アレルギー、嚥下）見学
7-9	金曜日（午前）	手術、あるいは病棟処置
7-10	金曜日（午後）	手術、あるいは病棟処置、専門外来（めまい、腫瘍、喉頭機能）見学

8	経験できる症例	<p>◆経験できる疾患</p> <p>中耳炎（急性、滲出性、慢性、真珠腫性）、耳硬化症、先天性耳瘻孔、突発性難聴、外リンパ瘻、メニエール病、副鼻腔炎（急性、慢性）、副鼻腔真菌症、術後性上顎嚢胞、オスラー病、鼻中隔彎曲症、鼻・副鼻腔悪性腫瘍、鼻涙管閉塞症、鼻出血、アレルギー性鼻炎、肥厚性鼻炎、口腔・舌悪性腫瘍、睡眠時無呼吸症候群、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、慢性扁桃炎、扁桃病巣疾患、咽頭癌、咽頭潰瘍、急性喉頭炎、急性喉頭蓋炎、声帯ポリープ、喉頭がん、声帯麻痺、喉頭異物、食道異物、気道異物、気道狭窄、顔面神経麻痺、顔面外傷、甲状腺・耳下腺・顎下腺腫瘍（良性、悪性）、唾石症、頸部リンパ節転移、頸部嚢胞性疾患、頸部蜂巣炎、深頸部膿瘍、頸部外傷、嚥下障害など。</p>
9	指導医からのメッセージ	<p>コース長 指導医 伊藤真人</p> <p>耳鼻咽喉科は、頸から上の複雑な構造をもつ様々な器官を扱う診療科です。聴いて、話すというコミュニケーション機能の改善を行うとともに、食べて、呼吸をする生命維持に不可欠な臓器を取り扱う診療科です。将来どのような分野に進むに関わらず、耳鼻咽喉科での研修は必ず役に立ちます。皆さんと共に仕事をできるのを楽しみにしています。</p> <p>コース修了者 五十嵐丈之（卒後7年目、本文作成者）</p> <p>大学病院ではありますが、稀少症例／難治症例ばかりではなく、病棟業務や外来診療参加を通して、一般的な急性疾患／良性疾患などの症例もまんべんなく数多くみることができ、研修には最適の環境です。悪性疾患などの全身管理など内科的なことから、手術手技はもちろん、外来処置、術後処置など、外科的なことまで、多くのことを学べます。ぜひ、一度耳鼻咽喉科を研修してみてください。</p>